

留学体験レポート

国際文化学科

21016059

長井あずさ

私は9月5日から12月28日の約4ヶ月間、韓国の慶熙大学に留学をした。昔から留学を試みたいという思いはあったが、留学までの日にちが近づくにつれ、外国での生活に不安が募っていった。しかし、韓国生活には徐々に慣れていくことができ、充実した留学生活を送ることが出来た。

心配していたことはいくつかあり、その中でも特に心配だったのは食事面であった。普段そこまで辛い食べ物を食べる習慣がなかったため、辛い食べ物もあるが食べられる種類が少ないのではないかと心配していた。実際、辛い食べ物はたくさんあったが、辛い食べ物もたくさんあったため、食事面で不満だったことはほぼ無い。だが、日本では辛い料理が、韓国では辛く調理されていることもあるので注意が必要だ。しかし、韓国で生活していると次第に辛い食べ物に身体が適応してくる。そのおかげで留学前より辛い食べ物を食べられるようになった。

学校生活では、最初の約1ヵ月弱は国際情報の生徒だけのクラスであったため、特に不安はなく、楽しく勉強することが出来た。しかし、その後にある正規学期では、様々な国から来た留学生と一緒に授業を行うため、友達になれるか、その前に話すことが出来るかとても心配だった。最初はあまり話せないこともあったが、授業で会話練習をしたり、休み時間に話をしたりして、クラスメイトと仲良くなることが出来た。学校が午前で終わる日は、クラスの人と数人でご飯を食べに行くことも何回かあった。いろんな国の留学生と関わって感じたことは、外国人は積極的な人が多いと感じたことである。これはその人達の性格であるため一概に言えないが、ご飯を食べに行くときは必ず外国人のクラスメイトが誘ってきてくれた。韓国での留学生活が終わる数日前にも、ご飯を食べに行こうと連絡をくれて、クラスメイトとチゲやアイスを食べるととても楽しい思い出を作ることが出来た。

そして、慶熙大学の特徴でもあるトウミという制度だ。付いてくれたトウミは年上の男性で日本語もできたため、会話の最中分からない言葉が出てきたときは日本語で教えてくれるため、韓国語勉強の助けになった。勉強だけでなく、韓国の有名な観光地などにも案内してもらい韓国を知る良い機会になった。

このようにクラスメイトやトウミなど、外国人と関わることで、自分の知らなかったことをたくさん知り、理解することが出来た。そして、一緒に留学した国際情報大学の友達がそばにいてくれたことで、毎日が楽しい留学生活になった。この貴重な留学で経験したことを忘れずに、今後も勉強に励んでいきたい。